



雪小だより 9月号

令和 8年 9月 1日
大田区立雪谷小学校
校長 大曾根 努

<http://www.ota-school.ed.jp/yukigaya-es/index.html>

見えない「礎」が、大きな成長の力になる

校長 大曾根 努

朝夕の風にほんのりと秋の気配が感じられるようになり、夏休みが明けて校舎にこどもたちの元気な声に戻ってまいりました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、夏季休業中の温かい見守りとご協力、誠にありがとうございました。大きな事故もなく無事に2学期のスタートを迎えることができました。心より感謝申し上げます。

さて、4年に一度のサッカーの祭典、ワールドカップが、スペインの優勝で幕を閉じました。決勝は夏休みに入ってすぐの3連休に行われましたので、観戦したり、ニュースで見たりした方も多かったのではないのでしょうか。日本代表は決勝トーナメントの一回戦でサッカー「王国」であるブラジルに1対2で惜敗しましたが、途中までリードをする内容に「日本のサッカーのレベルがまた一段と高くなった」と感じました。親善試合をしても、手も足も出なかったブラジルと、ここまで戦えた経験は4年後に必ずつながると確信しています。アジアの予選を勝ち進み、ワールドカップでも予選リーグを勝ち進み、決勝トーナメントに進むことができるのも決して偶然に生まれたものではありません。選手たちの努力はもちろん、その背後には長い年月をかけて築かれた見えない土台、礎（いしずえ）があります。

壮大なピラミッドも、頂点を支える無数の石があってこそ成り立ちます。日本のサッカーもまた、多くの先人たちが築いた土台の上に今日があります。

その歴史の陰には、サッカーがまだ国内で全く注目されていなかった時代から、情熱を注いでその発展を支え続けた一人の実業家の存在がありました。旧・田辺製薬（現在の田辺三菱製薬）の第14代社長を務めた、田邊五兵衛（たなべ ごへい）氏です。

昭和初期の日本において、サッカーは野球などの人気競技の陰に隠れ、認知度も極めて低いマイナーなスポーツでした。しかし、田邊氏はその競技としての魅力やチームワークの教育的価値、そして将来の可能性をいち早く見抜いたそうです。そして、自社の実業団チーム（現在のガンバ大阪）を創設したにとどまらず、日本サッカーの「土台作り」に人生を捧げました。

自費で大阪に日本初となる芝生専用グラウンドを開設し、選手に最高の練習環境を提供したことや海外の最先端ルールや戦術書を買寄せて自ら翻訳し全国へ無償で広めたこと、現在の天皇

杯の前身となる大会へ優勝杯「田邊杯」を寄贈したこと、さらには戦後の困難な時期にも協会組織の再建を資金・場所の両面で強く後押ししたことなど、その功績は数多くあります。

田邊氏が情熱を傾けていた当時、その地道な努力がニュースとして華々しく報じられることはほとんどありませんでした。しかし、コツコツと育まれたその「目に見えない力」があったからこそ、日本サッカーの芽は途絶えることなくしっかりと大地に根を張り、数十年という時を経て、世界と対等に戦う現在の大樹へと大きく成長を遂げたのです。

大きな木が強い風にも倒れず、豊かな葉を茂らせて美しい花を咲かせるためには、土の中で広がる深く力強い「根っこ」が欠かせません。この「目に見えない根っこ」こそが、物事を根本から支える礎（いしずえ）です。

2学期は、運動会をはじめとする大きな行事、校外学習、そして毎日の積み重ねである日々の学習や係活動など、こどもたちが目標に向かって一歩を踏み出す成長の機会にあふれています。行事の本番でスポットライトを浴びる瞬間や、目に見える結果を残すことも非常に素晴らしいことですが、学校教育においてそれ以上に価値があるのは、本番に至るまでの試行錯誤、練習を積み重ねる毎日、そして友達と声を掛け合い励まし合ったプロセスそのものです。

毎朝の元気なあいさつ、毎日コツコツ取り組む学習、諦めずに最後までやり抜く粘り強さ、失敗しても立ち上がる気持ち。一見すると目立たない毎日の行動の一つ一つが、こどもたちの将来をどんな時も力強く支える「一生の根っこ（礎）」となって蓄積されていきます。

華やかな結果ばかりに目を奪われるのではなく、その陰にある小さな努力や準備、地道な行動の積み重ねをしっかりと認め、価値を見出していくこと。それこそが、こどもたちの自己有用感や自己肯定感を育み、未来へとしなやかに生き抜く力を育てていくと考えています。

今学期も、教職員一同、こどもたち一人一人が自分らしい強い「根っこ」を安心して伸ばしていけるよう、温かく、時には根気強く寄り添って指導・支援を行ってまいります。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご理解と温かいご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

9月の目標

規則正しい生活をおくろう

1	火	始業式 エールウィーク(始)	SC
2	水	給食(始) 午前授業 身体計測(6)	
3	木	午前授業 身体計測(5)	
4	金	午前授業 身体計測(4)	SC
5	土		
6	日		
7	月	エールウィーク(終) 身体計測(3)委員会	
8	火	安全指導 身体計測(2)	SC
9	水	避難訓練(Jアラート) 身体計測(1)	
10	木	身体計測(杉)	
11	金	3年金曜6時間授業始 身体計測(欠)	SC
12	土		
13	日		
14	月	読書週間(始) クラブ	
15	火		
16	水	開校75周年記念航空写真撮影 候補日	
17	木	開校75周年記念航空写真撮影 候補日	
18	金	読書週間(終)	SC
19	土	雪ヶ谷八幡例大祭	
20	日	雪ヶ谷八幡例大祭	
21	月	敬老の日	
22	火	国民の休日	
23	水	秋分の日	
24	木	特支・連合運動会準備	
25	金	特支・連合運動会	SC
26	土		
27	日		
28	月	クラブ	
29	火	開校75周年記念航空写真撮影 候補日	
30	水	ブー	



4年生(2学期に向けて)

4年担任

いよいよ2学期が始まりました。クラス替えをし、新しい学級での生活にも慣れ、友達の輪を大きくすることができました。

1学期は、遠足や雪小フェスティバル、社会科見学などの行事や水泳学習、わくわくカップの活動など盛りだくさんでした。実行委員を中心に、それぞれの行事や学習、活動に主体的に取り組むことができました。

2学期には、運動会があります。学年全体で集団として活動することや、最後まで諦めずに取り組む気持ちなどが高まってくれたらと思います。

約半年後には5年生です。学習面や生活面などで、めあてをもって粘り強く取り組むことや、自分のことは自分でやることなど、高学年としての自覚が芽生えるよう指導していきます。

2学期もよろしくお願いします。

ICT(ICT機器の活用について)

ICT 担当

学習の中で、タブレット端末を活用する機会が増えています。タブレットを活用することで、一人一人が自分のペースや習熟度に応じて学習に取り組むだけでなく、写真や動画などを活用して学習内容を具体的にイメージし、興味・関心を高めることにもつながっています。

今年度の主な活用例として、低学年では、写真を撮影して植物の成長を観察したり、友達と考えを共有したり、授業の振り返りを行ったりしています。高学年では、社会科や総合的な学習の時間を中心に、調べ学習のツールとして活用し、調べた内容をスライドにまとめて発表するなど、学びを深めています。

タブレット端末を効果的に活用するためには、学習用端末としての正しい使い方や情報モラルを身に付けることが大切です。学校でも継続して指導してまいりますので、ご家庭でも安心・安全にタブレット端末を活用できるよう、お声がけやご協力をお願いいたします。

クラブ活動について

特別活動部 クラブ担当

クラブ活動では、共通の趣味・関心のある4、5、6年生のこどもたちが集まり、異学年の交流も深めることができる活動を目指しています。

毎回の活動前には、クラブ長を中心に自分たちで活動内容を考え、計画を立て、協力して取り組んでいます。また、同じクラブのみんなが楽しむことができるように、ルールやチーム分けを工夫したり、教え合ったりする姿も見られます。

今後も異学年交流を積極的に行い、有意義な時間にし、こどもたちが「楽しかった!」と思えるようなクラブ活動になるようにサポートしてまいります。